

■ 広場全体の利用率

広場の利用件数は、中規模以上のイベントが全体の半数以上を占めています。イベント件数は増加傾向にあり（図 2-8）、規模別の広場利用日数は、大規模のイベントが最も多くなっています（図 2-9）。

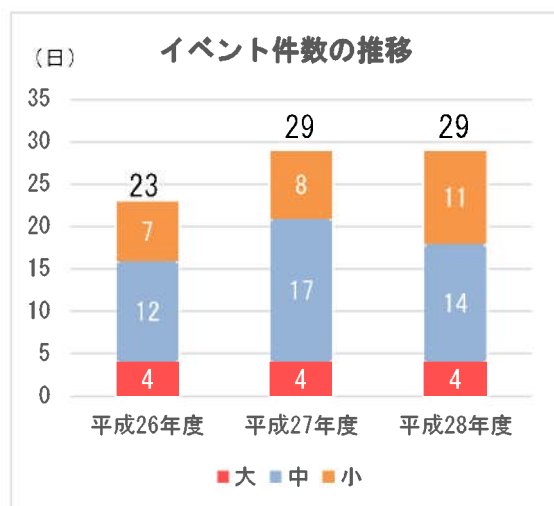


図 2-8 広場でのイベント件数の推移

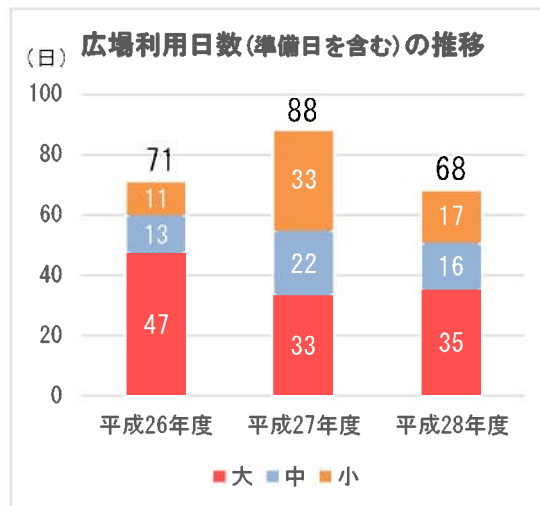


図 2-9 広場利用日数（準備日を含む）の推移

【規模について】

- 小：小規模イベント 参加者数 ～1,000 人程度
- 中：中規模イベント 参加者数 1,000～3,000 人程度
- 大：大規模イベント 参加者数 3,000 人程度～

2016年（平成28年度）の広場利用日数は68日で、利用率は18.6%となっており（図2-10）、季節毎に見た広場の利用日数は、夏（7～9月）が最も多く、秋（10～12月）が最も少ない状況です（図2-11）。

| | | 1年間 | | 2014年度 (平成26年度) | | 2015年度 (平成27年度) | | 2016年度 (平成28年度) | |
|----------------------|----|-------------|-------------|--------------------|-------------|--------------------|-------------|--------------------|--|
| | | 全体 日数(日) | 利用 日数(日) | 利用率 | 利用 日数(日) | 利用率 | 利用 日数(日) | 利用率 | |
| 広場利用日 (準備日 含む) | 平日 | 247 | 39 | 15.8% | 43 | 17.4% | 34 | 13.8% | |
| | 休日 | 118 | 32 | 27.1% | 45 | 38.1% | 34 | 28.8% | |
| | 計 | 365 | 71 | 19.5% | 88 | 24.1% | 68 | 18.6% | |

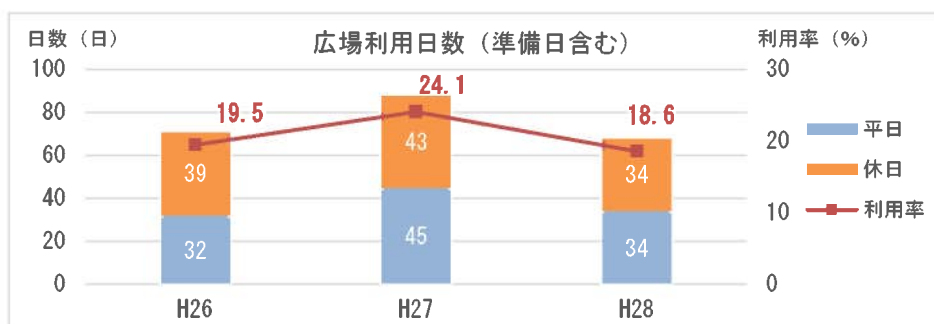


図2-10 広場の準備日を含む利用日数の推移

※1年間の平日・休日の全体日数（休日・平日）は、2014年（平成26年）の日数を採用。

| | | 2014年度 (平成26年度) | | 2015年度 (平成27年度) | | 2016年度 (平成28年度) | |
|---------------|----|--------------------|---------|--------------------|---------|--------------------|---------|
| | | 利用日数(日) | 利用日数(日) | 利用日数(日) | 利用日数(日) | 利用日数(日) | 利用日数(日) |
| 春 (4～6月) | 平日 | 1 | 8 | 7 | 22 | 3 | 17 |
| | 休日 | 7 | (6) | 15 | (10) | 14 | (11) |
| 夏 (7～9月) | 平日 | 20 | 33 | 24 | 45 | 17 | 29 |
| | 休日 | 13 | (15) | 21 | (14) | 12 | (14) |
| 秋 (10～12月) | 平日 | 0 | 3 | 1 | 5 | 1 | 3 |
| | 休日 | 3 | (3) | 4 | (4) | 2 | (3) |
| 冬 (1～3月) | 平日 | 18 | 27 | 11 | 16 | 13 | 19 |
| | 休日 | 9 | (1) | 5 | (1) | 6 | (1) |

※利用日数の下の（）内はイベント件数。

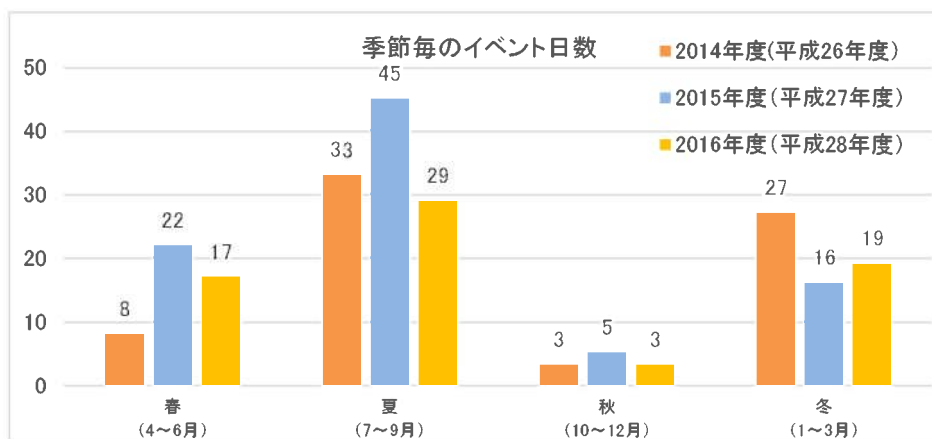


図2-11 広場の季節毎の利用日数

■ ステージ・パーゴラの利用率

ステージの利用率は、全体で見ると約 5 割となっていますが、大規模のイベントでは必ず利用されています。

パーゴラの利用率は、全体で見ると約 8 割弱となっており、大規模と中規模のイベントでは必ず利用されています。

飲食実施率は、全体で見ると約 3 割にとどまりますが、大規模のイベントでは必ず実施されています。

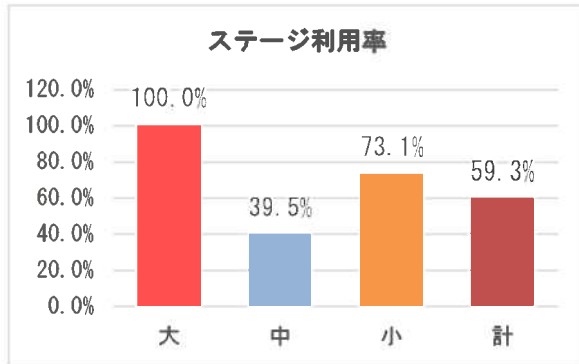


図 2-12 ステージ利用率

ステージの様子

※ステージテント（屋根）は 5 月上旬～10 月末までの設置

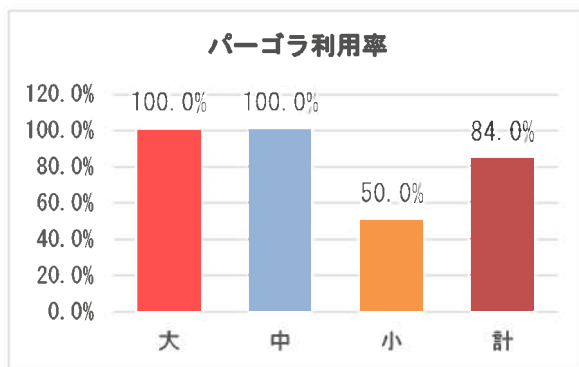


図 2-13 パーゴラ利用率

パーゴラの様子

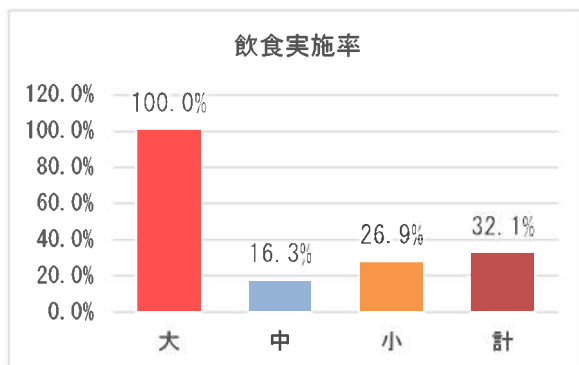


図 2-14 イベントでの飲食実施率

厚別区子どもまつりの飲食店の様子

※グラフは全て平成 26～28 年度の合計値

(2) 公園の利用状況

■北側

①キラ☆キラ広場

2010年（平成22年）に区の20周年事業の一環として整備された噴水広場です。「みんなが安心してくつろげる賑わいの空間」をキーワードに、特に小さな子どもの利用にスポットを当てた整備がなされており、現在も多くの親子がにぎわう空間として活用され、貴重な施設となっています。



キラ☆キラ広場の様子

②園路（駐輪場）

商業施設と公園を結ぶ科学館公園前の園路上には、通勤・通学者等のための仮設駐輪場が設置されており、歩行空間を一部阻害しています。そのため、隣接するキラ☆キラ広場に人や自転車が侵入し、動線化してしまっている現状があります。



園路上にある仮設駐輪場の様子

■南側

多くの機能が集積する駅周辺において、自然を感じられる貴重な散策路となっています。

ただし、平坦ではなく高低差があることに加え、成長した高・低木が密集していることから、視認性が悪く利用者は少ない状況です。

また、公園用のトイレも設置されていますが、同様の理由で利用しづらい状況です。



南側の様子

■中央部

青少年科学館のエントランス広場となっており、コンセプトに即した日時計やモニュメント等が設置されているほか、広場の中心部には地下鉄出入口が設置されています。

開かれた空間を利用して、区民まつりの際には飲食等の出店が並ぶなど、広場とともににぎわいの創出に寄与しています。

しかし、日常的に人通りも多くなく、人が滞在するようなにぎわいは少ない状況です。



公園中央部の様子

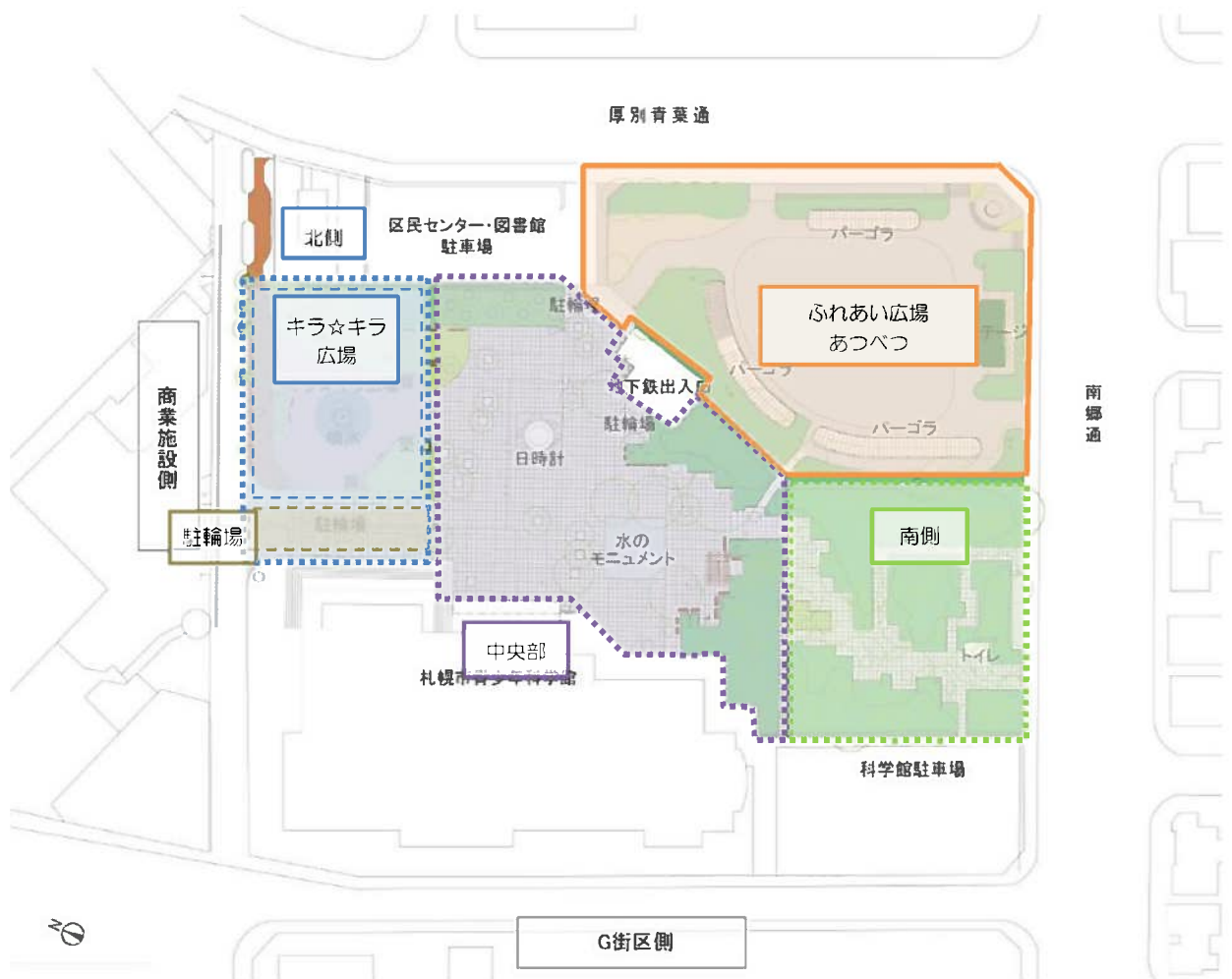


図 2-15 計画地区図

3 利用者等のニーズ調査

(1) アンケート調査

広場や公園利用者及びその周辺の通行者や施設利用者を対象に、広場や公園の日常的な利用や今後の利用に関するアンケート調査を行いました（詳細は、資料編 P. ●参照）。

■ 調査概要

○ 調査日時

① 街頭アンケート

広場・公園及びその周辺でイベントが開催される日を除く、平日・休日の各1日（土曜日
も休日とみなす）。

（休日調査日） 2017年（平成29年）8月19日（土） 10時～18時

（平日調査日） 2017年（平成29年）8月21日（月） 10時～18時

② 配架アンケート（厚別区役所、厚別区内まちづくりセンター等の公共施設や JR、地下鉄などの 公共交通機関にて配架）

2017年（平成29年）8月19日（土）～2017年（平成29年）9月6日（水）

○ 回収数

① 街頭アンケート 127件（休日 60件、平日 67件）

② 配架アンケート 242件

計 369件（うち無効票数 21件）

■ 主な調査結果（再整備内容に関する主な回答）

【将来のあり方について】

Q より多くの方に利用してもらうために、科学館公園はどのような場所になったら良いと思うか。

1位 気軽に休めてくつろげる場所：26.7% / 2位 親子が安心して遊べる場所：26.6%

Q 今後、ふれあい広場あつべつでどのようににぎわいを生み出したら良いと思うか。

1位 イベント情報をもっと知ってもらえるよう PR する：34.1%

2位 多くのお祭りやイベントを実施する：33.3%

【広場・公園全体の望ましい整備内容に関する意見】

Q 多くの方に利用され、にぎわいを生み出すためにはどのような整備を行うと良いと思うか。

1位 ベンチやテーブル等の休憩設備の設置：24.4%

2位 明るく見通しの良い空間や芝生の整備：20.4%

【利用に関してネガティブな意見】

Q 科学館公園を利用したことがない方の理由

1位 居住地から遠い：23.4% / 2位 存在を知らなかった：20.6%

Q ふれあい広場あつべつのイベントに来場したことのない方の理由

1位 イベントを実施していることを知らない：44.0% / 2位 居住地から遠い：24.8%

【再整備に関する自由意見】

| 分類 | 主なご意見 |
|--------------|--|
| 飲食について | ・屋台やフードカーなどが平日にあれば利用したい。 ・カフェやワゴンサービスをつくってはどうか。 |
| イベントについて | ・休日でも何もイベントを実施していない時もあるので、イベントを増やしてほしい。 ・色々なイベントがあって良い。区外の人も来てくれたらもっと活発になるのではないか。 |
| 周辺施設との連携について | ・周辺施設との連携をはかってほしい。(イベントでの連携、空間・動線としての連携) |

(2) あつべつ区民協議会（厚別のにぎわい検討委員会）からの意見収集

地域の方々による自主的なまちづくり検討の場である「あつべつ区民協議会」には、主に新さっぽろ駅周辺地区のにぎわい創出に特化して意見交換を行う「厚別のにぎわい検討委員会」という部会があります。

当部会でなされた広場・公園の再整備に関する自由な意見交換の内容について、「ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会」に資料として提出していただくとともに、同あり方検討委員会にも一部委員として参加していただくなど、地域の声をよりに反映できるよう連携を取りながら本計画の策定を進めました。(詳細は、資料編 P. ●参照)

再整備に向けて（広場・科学館公園の利用状況、利用者等のニーズを踏まえて）

広場・公園では、厚別区民まつりを中心に、地域全体で担い・楽しむことができ、多くのにぎわいを創出している大規模なイベントが開催されています。これら地域が必要としている**歴史のあるイベントを引き続き支えていく**ことが求められます。

しかし、広場の年間利用率は決して高くなく、**特に秋・冬の季節の利用が少ない**という課題があることから、**四季折々に1年中にぎわいを生むことに寄与**できる空間とすることが求められます。

加えて、公園内に設置されている仮設駐輪場によって、公園・広場の回遊性が阻害されており、両者の連携や一体での活用がしづらい状況となっていること、さらに、アンケート調査では「気軽にくつろげる」「親子が安心して遊べる」といった意見がある一方で、「多くのお祭りやイベントを実施する」ことを望む意見も多くあることから、**広場・公園を一体的に捉え、様々なニーズに応えられるような再整備**を目指す必要があります。

また、アンケート調査では飲食サービスの提供やイベントの増加、周辺施設との連携など、**にぎわい創出に繋がるソフト面の取組み**についても意見が出されていることから、将来的な広場・公園の一体的な管理・運営のあり方等も含めた検討も求められます。

4 老朽化施設の状況

(1) 広場



図 2-16 広場の老朽化の状況

(2) 公園



図 2-17 公園の老朽化の状況

再整備に向けて（老朽化の状況を踏まえ）

これまでの章で確認してきたとおり、広場・公園では、一体的に利用して行われる大規模なイベントから小・中規模のイベントまで、多様なものが開催されています。

地下鉄や JR の駅前空間でありながら、ステージやパーゴラ、水栓設備などを気軽に利用できる環境は、地域を中心とした利用者にとって非常に貴重な存在です。

今後も多様なイベント・にぎわいを支える空間として、既存設備の必要な更新と更なる改善を行い、**引き続き利用者の利便性と安全性を確保**することが必要です。

また、多くの方々が日常的に利用する公園内でも、歩行空間となりうる箇所や照明設備等の老朽化、また樹木の密集など、視認性や安全性に課題を抱えていることから、再整備の中で課題を解消し、**将来の更なるにぎわいややすらぎの創出に向けて再整備**を行う必要があります。

5 周辺開発の状況（G・I街区の開発想定）

■ G街区の開発〔2021年4月開業予定〕

G街区の開発では、文系学部及び看護学部の大学の設立、産学連携施設の設立が予定されています。地域に開放される多目的ホールや図書館機能を集積し、多くの学生が集まることによる、にぎわい創出や地域コミュニティへの寄与が期待されています。



図 2-18 南郷通側から見たG街区のイメージパース

出典：新さっぽろ駅周辺地区 G・I街区公券提案審査報告書

■ I 街区の開発〔2022 年 4 月開業予定〕

I 街区の開発では、医療施設 4 棟、集合住宅、宿泊施設、商業施設の整備が予定されており、にぎわいを生む広場空間をホテル前面、集合住宅後ろの 2 か所に整備することで、多様な機能集積による持続可能なにぎわいの創出が期待されています。



図 2-19 原始林通から見た I 街区のイメージパース

出典：新さっぽろ駅周辺地区 G・I 街区公募提案審査報告書

再整備に向けて（周辺開発の状況を踏まえ）

G・I 街区のような大規模な開発は、新さっぽろ駅周辺地区のまちづくりを進めるうえで非常に大きな効果をもたらします。

広場・公園においても、この機を逃すことなく、地区全体に最大限の効果を発揮できるような再整備が求められます。

とりわけ、隣接する G 街区の開発により、学生を中心とした多くの若者が来訪することが予想されることから、周辺施設との動線上のつながりを強化し、**まち全体の回遊性向上と広場・公園自体のにぎわいを向上**できるような整備が求められます。

また、動線上のつながりのみではなく、周辺商業施設や G 街区の教育施設との積極的な連携によって、若者や学生が活躍できるような利活用ニーズの発掘、にぎわい創出の新たな担い手の育成などを目指す必要があります。

第3章 再整備方針

1 再整備のテーマと方針

第2章までで確認したとおり、広場と公園は厚別区におけるにぎわい創出や自然を感じる貴重な空間として重要な役割を担っていることが分かりますが、各設備等の老朽化の進行や秋・冬の利用率の低さなど、種々の課題を抱えています。

また、周辺は利便性の高い公共交通機関や多様な機能が集積されており、さらに市営住宅跡地を中心に周辺開発の活性化が予想されるなど、まちづくりにとって大きな可能性を秘めています。

そのため、引き続き広場における厚別区民まつり等を中心とした多くのにぎわいを支え、また更なる利活用を目指すこと、さらに、駅前の貴重なゆとり空間として、日常的にも利用しやすいものとなるよう、利便性と安全性の確保を図ることができるよう再整備を進めます。

加えて、周辺開発の活性化等を中心としたまちづくりの大きな契機を逃すことなく、将来のにぎわい創出に寄与することを目指し、新さっぽろ駅周辺の回遊性向上やにぎわいの連続性に最大限寄与すること、またそのにぎわいを享受して、広場・公園自体がより魅力的な空間となることできるよう、再整備を進めます。

以上のことを踏まえ、再整備内容の検討にあたっては、以下のようなテーマ・方針を設定します。

【再整備のテーマ】

にぎわいの創出

ゆとりと
やすらぎの確保

安心・安全
の提供

空間の有効活用と
まち全体への寄与

情報発信と
魅力の強化

【再整備方針】

- 子育て世代や若年層が愛着を持てる空間
- 多世代が訪れ、多くの交流が生まれる空間
- 1年を通じて利用される空間
- 多様なイベントが行われ、多くの人々が集まれる空間
- 日常的ににぎわいがあり、活力を感じられる空間
- 駅周辺で憩い、休憩できる空間
- まちなかに居ながら適度な自然が感じられる空間
- お昼休憩など日常的な利用が快適にできる空間
- 子どもたちが楽しく遊べる・親子が安心して遊べる空間
- 明るくて見通しが良く、誰もが安全に利用できる空間
- 広場・公園の一体的利用・効果的な管理・運営の可能性を広げる空間
- まち全体の回遊性向上に寄与し、周辺施設からのにぎわいを共有できる空間
- いつ何が行われているか、誰もが情報に触れることができる空間

2 各エリアに求められる役割(ゾーニング)

再整備内容を検討するにあたり、広場・公園を一体的に大きな空間と捉えた上で、既存の役割や現状の課題、今後の周辺環境の変化等を踏まえてどのエリアがどのような役割を担うべきなのか、ゾーニングにより明確化します。

○キラ☆キラ広場周辺 ⇒ 子どもが安心して遊べるにぎわいと休息のエリア

現在でも、夏を中心に多くの子どもたちでにぎわい、活力を感じられる空間となっており、商業施設側に最も近く、駅前空間における元気で心温まる印象を与える貴重な空間となっています。

引き続き、小さな子どもたちでにぎわう空間を大切にするとともに、その役割・印象を強め、子育て世代を中心に愛される空間づくりを目指します。

○ふれあい広場あつべつ ⇒ にぎわいを生み出し魅力を発信するエリア

現在も多様なイベントが行われており、厚別区を代表する貴重なにぎわい創出空間です。

引き続き区全体の魅力や活力を高め、発信できる空間を目指すとともに、多様な世代が活躍・交流でき、また四季折々で一年中にぎわいのあふれる魅力的な空間づくりを目指します。

○公園南側 ⇒ 多世代のにぎわいが生まれるやすらぎエリア

樹木の多い空間となっていますが、その成長とともに薄暗くなり、視認性や安全性の確保が求められます。

この課題を解消するために、衰弱木の伐採や密集した樹木の間伐とともに、ゆとりあるスペースを創出するための伐採と芝生整備を行うことによって、多様な世代がやすらぎを感じられる心地よいみどりの空間づくりを目指します。

また、広場と隣接するエリアであることから、日常の利用だけでなくイベント時にも対応できる利便性の高い空間づくりを目指します。

○公園中央部 ⇒ ゾーンをつなげる核となるエリア

現在は、科学館前のエントランス広場として、植樹帯や各種モニュメント等が設置されています。

今後は、周辺施設とのつながりやにぎわいの連続性に重要な核になるエリアとして、人々が行き交い、にぎわいが生まれる空間であるとともに、立ち止まりつるぐこともできる空間づくりを目指します。

また、各エリアの中心部でもあることから、日常の利用だけでなくイベント時にも対応できる利便性の高い空間づくりを目指します。

○広場・公園への入口部(動線部)

周辺の開発を意識し、より一層まち全体のつながりに寄与し、また、そのにぎわいを享受することで、日常的な利用及びイベント等の利用ニーズが増えるような快適な動線づくりを目指します。

3 再整備内容について

■各ゾーンの再整備内容

ゾーニングに基づき、各エリアにおける具体的な整備内容を検討します。

○子どもが安心して遊べるにぎわいと休息のエリア

より多くの子どもたちが楽しみ、また親が安心して見守ることができる空間として、既存の噴水周辺のキラ☆キラ広場を拡大し、以下のような整備を行います。

- 芝生や子ども(幼児)用遊具の設置
- ベンチ等の休憩施設の増設



図 3-2 噴水周辺の再整備イメージ

○にぎわいを生み出し魅力を発信するエリア

引き続き多様なイベントでにぎわいを創出することができるよう、各種設備の保全を行います。また、年間を通じたにぎわい創出を目指すとともに、音楽系や演劇系の利活用ニーズへの対応、若者を中心とした多世代が楽しめるイベントに対応できる空間として、以下のような整備を行います。

- パーゴラの修繕
 - 屋根の張り替え
 - 天井照明設備の更新 等
- ステージ・テントの修繕
 - 常設屋根の設置
 - 天井照明・音響設備の更新
 - ステージ床・側面の修繕 等
- ステージ地下の修繕
 - レイアウト変更
 - 空調設備・排水設備の更新 等
- 音響・照明塔の更新
- 舗装面の修繕と排水性の向上
- イベント等のお知らせ看板等の設置
- 給排水設備の更新

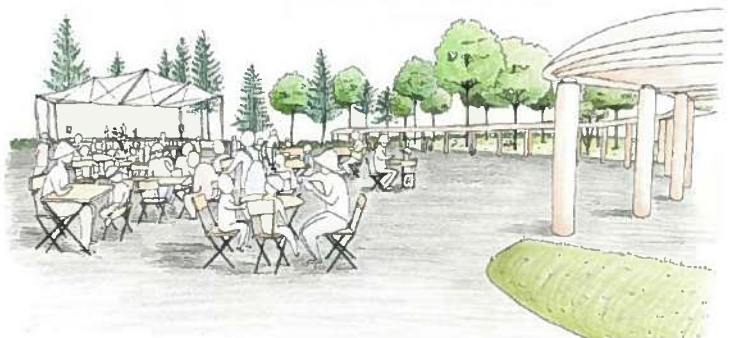


図 3-3 広場の再整備イメージ

○多世代のにぎわいが生まれるやすらぎエリア

現在抱える視認性や安全性の確保といった課題を解消するとともに、自然やゆとり空間によって多様な世代にやすらぎを与えることができる空間として、以下のような整備を行います。

- 樹木の整理(間伐、伐採、移植等)
- 芝生広場の整備
- トイレ周辺の視認性と安全性の確保
- ベンチ等の休憩施設の整備



図 3-4 公園南側の再整備イメージ

○ゾーンをつなげる核となるエリア

公共交通機関・商業施設・G街区・南郷通側をつなぎ、人々が行き交う動線の中心として、また、滞留できる空間として、以下のような整備を行います。

- 案内看板・サインの設置
- ベンチ等の休憩施設の整備
- モニュメント・日時計の撤去と植樹帯の移設・撤去等
- 各エリア間のつながりや歩行者動線の確保



図 3-5 公園中央部の再整備イメージ

■ゾーンのつながりと動線の再整備内容

○一体的な利活用の促進

現在、広場と公園の間は、樹木や段差により視認性の遮断や物理的な隔たりがあります。

そのため、広場がイベント等を行える特別な空間として独立している一方で、認知度の低さ、また公園と連携した一体的な利活用等に支障をきたしている状況です。

そこで、特に【にぎわいを生み出し魅力を発信するエリア】と【多世代のにぎわいが生まれるやすらぎエリア】の間、及び地下鉄出入口付近において、樹木の間伐による視認性の向上や一部高低差を活かした空間整備を行うことにより、各エリアの様々な場面での幅広い適応力を高め、効果的な活用ができる空間の整備を目指します。

○歩行者動線の整備

広場・公園周辺は、商業機能や公共交通機関が集積されており、またG街区の開発により教育機関が集積されるなど、今後、動線としての利用も含め多くの人足を運ぶことが想定されます。

そのため、商業施設側及びG街区側との連続性、各エリアの連続性を確保し、人通りによるにぎわいの演出だけでなく、周辺施設からの積極的な利用につなげることができるよう、快適な歩行空間を整備します。

なお、現在、商業施設側から公園に入る動線上に、公共交通機関等を利用する人たちの仮設駐輪場が設置されているため、地区全体の回遊性の阻害及びキラ☆キラ広場への人・自転車等の侵入が課題となっていることから、同駐輪場の移設を検討します。

■ 再整備後の利活用について(周辺事業者との連携)

再整備内容の検討にあたっては、現状の広場・公園の利活用実態から見る季節ごとの利用率等の課題、また周辺施設の利用状況などから見る潜在的な利用ニーズなどを踏まえ、どのような設備・空間が最も効果的に活用され、その後の利用促進策に繋げることができるのかといったイメージも、重要な視点の一つとして捉えています。

特に、G・I街区を中心とした今後の新さっぽろ駅周辺の開発は、当地区の交流人口、とりわけ学生等の若年層を大幅に増加させることが見込まれ、広場・公園を取り巻く環境が大きく変化し、その利活用の可能性を上げることが考えられます。

そのため、「ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会」における検討では、現在想定されているG・I街区の開発内容や今後の交流人口の増加見込み、またそれに伴う広場・公園の利活用の可能性等について、G・I街区開発事業者とも積極的な意見交換を行いながら検討を進めてきました。

今後も、再整備後の広場・公園の一体的な利活用を促進し、より一層のにぎわい推進を図ることができるよう、新たな利活用ニーズの発掘や地域との連携、より効果的・効率的な管理運営方法等について、引き続きG・I街区開発事業者を含む周辺事業者及び地域との意見交換を積極的に行いながら、再整備後の利活用に関する検討を進めていきます。

整備イメージ図



噴水周辺の再整備イメージ



広場の再整備イメージ



南風樹木帯の再整備イメージ



公園中央部の再整備イメージ

図 3-7 整備イメージ図